

佐伯警察署協議会

第1回会議の開催状況

第1	開催月日
	令和5年7月7日（金）

第2	出席者
	公安委員 協議会 委員 8名 警察署 署長、副署長、総務課長、会計課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、交通課長、警備課長 9名

第3 議事の概要

- 1 業務説明等
警察署から
・管内治安概況
について説明がなされた。
- 2 諮問事項の説明
警察署から
・諮問事項「高齢者の安全対策」
について説明がなされた。
- 3 諮問事項に関する意見
 - (1) 交通事故防止対策
 - ア 委員から「米水津地区は、十何年と死亡事故はないと思う。警察官の方に公民館に来てもらい、毎年1回、交通事故の講話をしてもらっているが、常に人を惹きつける講話をして頂きたい。単に「交通事故」「特殊詐欺」だけの話しをすると参加者は減る。極力、生活に密接した話をしたりして、興味を惹く話しをしてもらおうと助かる。」旨の意見がなされた。
 - イ 委員から「昨年、地区で警察官の方が講話をしてくれた。その時の講話は対話形式だったので、参加者も聞きたいことが聞けて良かったと好評だった。その感想を受けると、講話をするなら、講演会という形ではなく、身近な話を織り交ぜながらする「対話式」だと効果があると思った。例えば、高齢者サロンや体操教室などに出向き、身近な話を交えながら対話式で行うと、高齢者の方も話を聞きやすいし、効果があるのではないか。」旨の意見がなされた。
 - ウ 委員から「交通事故の全体数で言えば、高齢者に限らず、若者も事故に遭っている。自分が住む地区でも、48歳の男性がバイクで亡くなる事故が起きた。高齢者になってから交通安全の意識を高めるのではなく、小さいうちから、交通安全の意識を芽生えさせるようなシステムづくりをするのが大事だと思う。」旨の意見がなされた。
 - エ 委員から「高齢者のコミュニティに高齢者全員が参加している訳ではなく、参加者が少ないのが実情だと思う。蒲江地区に限って言うと、東九州自動車道の蒲江ICで降りた運転手が、そのまま388号線に入ってきて、高速道路の速度感覚のまま走り、かなりの速度超過をして走行している。388号線は住民の生活道路だし、高齢者が多く、とても怖い思いをしている。そんな関係もあり、横断歩道の移動をお願いした箇所がある。また、388号線上の速度標識を増やすなどして欲しい。」旨の意見がなされた。
 - オ 委員から「私の父は80代まで運転免許証を持っていたが、最後は家族の説得で、胸が痛む思いで免許を手放してもらった。説得する中で、高齢ドライバーに対して、年下の方が講話を行ってもあまり効果がないように感じた。同じような年齢、立場の人が話をしてくれ、講演を行う人も一緒に免許を返納をするような、促す、導くような講演が良いのかなと思う。」旨の意見がなされた。
 - カ 委員から「地区で警察官の方が講話をしてくれた際、シミュレーターをしてくれた。シミュレーターはとても好評だった。やはり新しいモノを取り入れると高齢者の方も興味を持ってくれる。講話の話題も、最新の交通情勢を話してもらえると、興味をもってもらえると思う。講話の中では、免許返納についても、もっと推し進めていったほうが良いと思っている。」旨の意見がなされた。
 - キ 委員から「自分がドライバーとして感じるのは、海崎地区は、高齢者の自

転車運転が多く、車道をフラフラ蛇行運転したり、斜め横断する状況を多く見る。ドライバーにとっても危ないと思うときが多い。講話も良いと思うが、地区の人が普段目にすることが多い回覧板などに、運転手、歩行者、自転車乗りに対するヒヤットするポイントの情報などを掲載して、住民に身近に情報を提供してくれると助かる。」旨の意見がなされた。

(2) 特殊詐欺被害対策

ア 委員から「年々手口が巧妙化しており、高齢者に限らず、私たちもいつ被害に遭うか分からない。また、私には県外に住む息子と娘がいるので、闇バイトなどに巻き込まれたらどうしようという不安がある。高齢者対策も理解できるが、併せて加害者を生まないための対策として、高等学校や中学校における講演や講話などの活動を行って頂ければと思っている。」旨の意見がなされ、警察署から「闇バイト対策などについては、サイバーセキュリティカレッジという講話を通じて行っている現状はあります。」旨の説明がなされた。

イ 委員から「金融機関と連携した水際対策を行っている」と説明を受けましたが、コンビニとの連携もあるんですか。」旨の質問がなされ、警察署から「コンビニにもご協力をお願いしています。ATM近くで電話したりしている人がいた場合の通報依頼や、ATM前に特詐欺防止のマットを敷いてもらったりと、可能な範囲で協力をお願いしています。」旨の説明がなされた。

ウ 委員から「個人的には、新聞、TVなど色々な媒体で広報活動を続けるしかないと感じている。今日たまたまケーブルTVを見ていたら、警察官の方が出演しているのを見た。市役所職員がケーブルに出演することはよくあるが、警察官の方が出演しているのは珍しいと思った。色々な媒体で広報活動することは効果があるので、ぜひ続けて欲しい。コンビニ従業員さんが特殊詐欺被害防止に貢献して表彰を受けたという報道を見ることがあるが、広報活動としても、とても良いことだと思った。1人1人、見る媒体は異なるので、できるだけ多くの媒体を使って広報を続けて欲しい。」旨の意見がなされた。